

！ 全国の猛暑日（日最高気温35℃以上）の年間日数は増加しています



35℃
以上

統計当初の10年間
(1910-1919)

平均年間日数

0.4日

最近の10年間
(2015-2024)

平均年間日数

4.6日

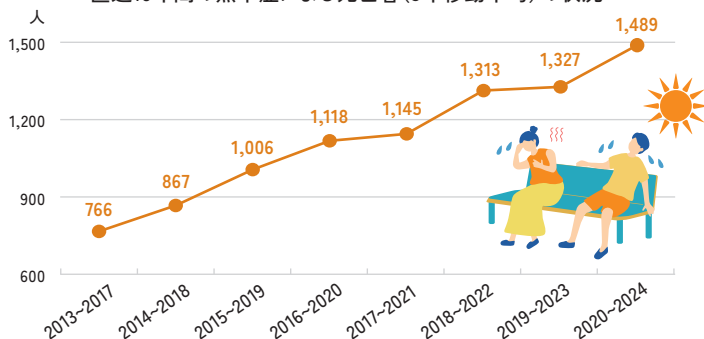
東京大学 未来ビジョン研究センター 江守正多教授

2014年に制作した「2050年の天気予報」の動画で、2050年の東京の連続真夏日日数を50日と想定しましたが、2023年には64日の記録が出て、想定を早々と上回りました。予想以上に早く、我々は記録的な猛暑を経験しています。

出典：気象庁「[全国13地点平均]日最高気温35℃以上（猛暑日）の年間日数」より消費者庁作成。
注）全国の13地点は、網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、銚子、境、浜田、彦根、多度津、名瀬、石垣島になります。都市化の影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく選出しています。

！ 熱中症による死亡者が急増しています （5年平均で1500人に迫る勢い）

直近10年間の熱中症による死亡者（5年移動平均）の状況



出展：厚生労働省 人口動態設計より消費者庁作成
令和6年の死亡者数にあっては概数（令和6年6月から9月）

猛暑の影響で、暑すぎて小学校の夏休み中のプールが中止になってしまい驚いた。

暑さ対策で、甲子園の開始時間が変更となり、気温上昇を身近に感じた。

気温が高いため、冬用のダウンや、春秋用の薄手のコートを着る期間が短くなった。

最近、各地の漁港で獲れる魚が変わってきているらしい。将来、今まで普通に食べていた魚が食べられなくなるかもしれない。

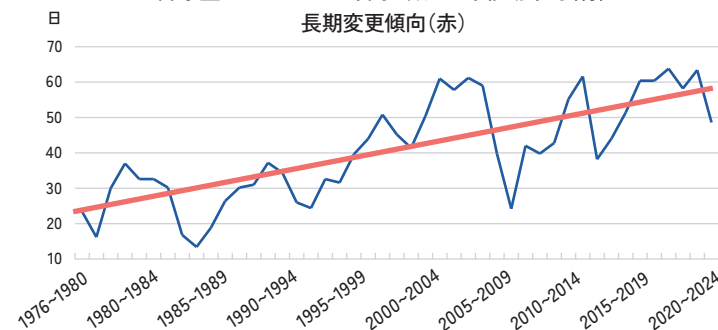
気候変動。 それは遠い未来ではなく 今そこにある「危機」

このような危機を作ったのも、それに拍車をかけているのも、今後過去を悔いることになるのも私たち。「私一人が何かをしたとしても…」と言っている場合ではありません。一人一人が、普段の消費行動をグリーン志向に少し変えることで未来が大きく変わるかもしれません。

！ 極端な大雨の年間日数が直近40年で倍増しています



日降水量300mm以上の年間日数の5年移動平均（青）と
長期変更傾向（赤）

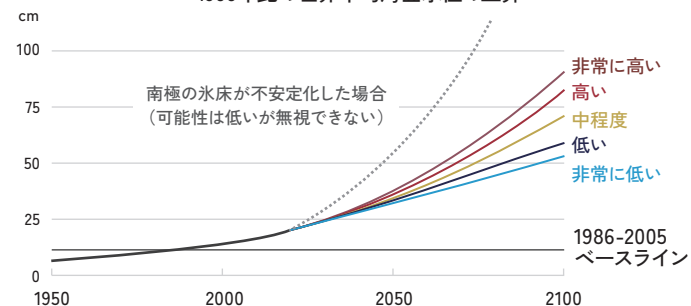


出典：気象庁「[全国1アメダス]日降水量300mm以上の年間日数」より消費者庁作成。

！ 海面水位の上昇に伴って リスクが増大します



1900年比の世界平均海面水位の上昇



出典：IPCC第6次評価報告書統合報告書の解説資料 2023年11月版（環境省）に加筆

東京大学 未来ビジョン研究センター 江守正多教授

海面上昇の影響で、日本でも既に、砂浜の浸食や高潮リスクの増大などが起きていると考えられます。日本は都市が沿岸部に集中しているため、さらなる海面上昇は日本に深刻な被害をもたらすでしょう。